

農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

 (9) なす・きゅうり選果場の新設による地域農業への貢献
J A 佐波伊勢崎 (群馬県)

新規	継続
○	
	(平成 年 月)

1 動 機 (経緯)	J A 佐波伊勢崎では、担い手の規模拡大や選果・出荷作業の軽減を望む生産者に応えるため、なす・きゅうり選果場を新設し、平成 29 年 4 月より稼働しました。
2 概 要	本選果場は、延べ床面積約 3,500 m ² で、選果機 7 ラインを備えています。選果場では、生産者が収穫した、なす・きゅうりがコンテナで集められ、1 本ずつ検査ラインへ流し、人間の目視とカメラセンサーによる 2 段階の検査により等級が決定され、その後、なすは袋詰め、きゅうりは箱詰めを行い、各市場へ出荷します。
3 成 果 (効果)	選果場の完成により、生産者にとって、作業労力の 3~4 割を占める選別・出荷調製作業が無くなるため、その分の労力を栽培管理や栽培規模拡大の選択、他品目の栽培検討等、様々な挑戦に取り組む環境が整うことが期待されています。
4 今後の予定 (課題)	選果場の稼働により、産地競争力の強化と規格の高位平準化による有利販売に努めつつ、農業所得増大と農業生産の拡大に取り組んでいきます。また、利用者全員にエコファーマー認定取得を呼びかける等、安心安全へのニーズが高まるなか、消費者の信頼を確保することで農業経営の安定化につなげていきます。

【選果場外観】



【選果場内部】

